

とれる!

多収性品種情報

平成30年6月22日
岩船農業振興協議会
村上農業普及指導センター

生育量は品種間差・ほ場間差大きい
～穂肥は1回目重視で遅れずに～

生育概況

草丈:並～短い(品種間差あり) 茎数:少 葉色:並(指標値比)

- 6月上旬の高温・多照で生育が回復したものの、6月13～16日頃の低温少照傾向で草丈の伸長は鈍化しており、茎数は、ちほみのりを除いて少なめ傾向です。
- 葉色は全般的に指標値並です。

1 6月20日現在の生育概況

【ちほみのり】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)		茎数(本/m ² 、%)		葉数(葉)		葉色 (SPAD)	
		本年	指標比	本年	指標比	本年	指標差	本年	指標差
関川/上野新	5/4	45	113	591	121	9.3	+0.1	42.2	-0.8
神林/小口川	5/1	42	105	693	141	8.9	-0.3	45.6	+2.6
平均	5/2	44	109	642	131	9.1	-0.1	43.9	+0.9

【つきあかり】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)		茎数(本/m ² 、%)		葉数(葉)		葉色 (SPAD)	
		本年	指標比	本年	指標比	本年	指標差	本年	指標差
関川/上野新	5/5	47	112	460	110	9.2	+0.4	44.6	+0.6
朝日/十川	5/4	39	93	322	77	9.1	+0.3	41.4	-2.6
平均	5/4	43	102	391	93	9.2	+0.3	43.0	-1.0

【ゆきん子舞】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)		茎数(本/m ² 、%)		葉数(葉)		葉色 (SPAD)	
		本年	指標比	本年	指標比	本年	指標差	本年	指標差
神林/桃川	5/13	36	80	416	72	8.9	-0.1	39.8	+0.6
村上/八日市	5/15	36	80	287	49	8.4	-0.6	35.9	-2.6
平均	5/14	36	80	352	61	8.7	-0.4	37.9	-1.7

【新潟次郎】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)		茎数(本/m ² 、%)		葉数(葉)		葉色 (SPAD)	
		本年	指標比	本年	指標比	本年	指標差	本年	指標差
神林/宿田	5/6	42	93	275	60	8.7	-0.3	42.6	+0.6
朝日/十川	5/2	39	87	334	73	9.3	+0.3	41.4	-0.6
平均	5/4	41	90	305	67	9.0	0.0	42.0	0.0

2 6月20日現在の出穂期予想

出穂期は早生・晩生ともに平年並の見込み。

熟期	品種名	出穂期 (予想)	穂肥時期(出穂前日数)と施肥量のめやす(窒素kg/10a)				合計施肥量 (窒素 kg/10a)
			1回目		2回目		
早生	新潟次郎	7月21日	6/26(25)	3	7/7(14)	3	6
	ちほみのり	7月23日	6/28(25)	3~4	7/9(14)	2~3	6
	つきあかり	7月25日	6/30(25)	3~4	7/11(14)	2~3	6
	ゆきん子舞	7月28日	7/3(25)	3~4	7/14(14)	2~3	6
晩生	あきだわら	8月17日	7/23(25)	3~4	8/3(14)	2~3	6

※出穂期は、気象条件で大きく変動するので、今後の情報に注意してください。

※品種によって生育量、葉数の進みが異なりますので、穂肥の施用に当たっては、各ほ場の幼穂を確認するなどしましょう。

3 穂肥施用のポイント ~遅れず適期に施用~

穂肥時期のイメージ



幼穂形成期頃(幼穂長1~2mm)の生育の目安

品種名	予想時期 (5月初旬植)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
ちほみのり	7月1日	51	700~850	10.4	44~51
つきあかり	7月3日	53	450~600	9.9	44~48
ゆきん子舞	7月5日	72	570~590	11.0	38~40
新潟次郎	6月28日	60	520~550	10.5	41~43

- 早生品種の1回目の穂肥施用は、収量確保のため適期を逃さず確実に実施しましょう。
- 生育量が極端に大きく倒伏が懸念される場合などは、遅め控えめの対応としましょう。
- 基肥一発肥料を用いた栽培でも、幼穂形成期頃に茎数不足や葉色が薄い場合は、穂肥を施用しましょう。

当面の病害虫の防除対策 ~いもち病・紋枯病・斑点米カメムシ~

- 多肥栽培条件では、いもち病や紋枯病が発生しやすくなります。下葉や株元をよく観察し、病斑を確認したらすぐに(紋枯病は発生程度に応じ)薬剤防除しましょう。また、常発ほ場では予防的に薬剤防除するよう心がけましょう。
- 早生品種など割れ粳の多い品種では、斑点米被害が発生しやすいので、ほ場周辺の休耕田・農道・畦畔の雑草管理や水田内のヒエ・ホタルイ対策を徹底しましょう。
- 飼料用米(新潟次郎)は、農薬の使用にあたっては、農作物病害虫雑草防除指針に基づき正しく使用しましょう。